学習内容報告書 フォーマット

学校名	大阪府泉南郡岬町立深日小学校
授業者	岡田良平（担任）・奥雄二（深日小情報教育担当）

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

オンライン中継授業（時に海を見よう）

1-2. 学年

第 3 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間・社会科・理科

1-4. 単元の概要

社会科で中学年に配当される地域学習をベースにし、第 3 学年に配当される「身近な地域の市町村の様子について」の学習を軸に、総合的な学習の時間を組み合わせることで岬町の魅力のひとつである海について、児童が知り・発信することを通して地域の海洋文化や水産資源の豊かさの再発見することを目的としている。また、金沢星稜大学人間科学部に在籍する教員養成課程の大学生らへ深日漁港からオンライン中継授業や交流をすることで、オンライン授業やＳＤＧｓに対応する次世代の教員養成にもつなげていくことを目的としている。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

第 3 学年の社会科「身近な地域の市町村の様子について」の学習を軸に、総合的な学習の時間を組み合わせることで岬町の魅力のひとつである海について、児童が知り・発信することを通して地域の海洋文化や水産資源の豊かさの再発見することを目的としている。また、金沢星稜大学人間科学部に在籍する教員養成課程の大学生らへ深日漁港からオンライン中継授業や交流をすることで、オンライン授業やＳＤＧｓに対応する次世代の教員養成にもつなげていくことを目的としている。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

・探究的な見方・考え方を働かせ、教科等横断的な学習を通して、地域の魅力を知り・気付き・自然や人とのつながりを通して、協働的に取り組むことでよりよく問題解決をしていく能力の育成

・先人の知恵や工夫を知り、自身の生き方や考え方を深め、発信することで人とのつながりが大切なものであることに気付く

1-7.　単元の展開（全　６時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 ／ 主な評価 外部連携 ／ 使用教材等
1	オンライン中継授業に向けた台本の確認とセリフの割り振り	・担任による指導 ・外部連携として、金沢星稜大学人間科学部子ども学科の学生 ・使用教材として台本（別紙参照）がある
3	セリフの読み合わせ	・担任による指導 ・セリフの個人練習と読み合わせや演技を含めた読み合わせによる全体練習
2	オンライン中継授業（深日漁港） タッチングプールの様子 中継授業の様子	・担任（全体指示）、ICT 機器の調整等（深日小情報教育担当、岬町ＩＣＴ支援員）、岬町教育委員会生涯学習課、深日漁協組合員、大阪府水産技術センター職員、松井幸一准教授、野間晴雄教授、舟橋和夫名誉教授、リモートの相手として金沢星稜大学の学生及び芥川元喜准教授らが参加 ・児童の司会によるリモート授業とタッチングプールでの魚の観察と紹介 ・岬町のＧＩＧＡ構想の推進と連動して、モバイルルーターを使用した屋外からのリモートは初の試みであったことから児童の学習の様子には非常に注目が高く、町内外の関係者が視察に訪れた。児童が積極的に魚に興味関心を持ち、それまで魚を触れなかった子も触れるようになるなど実体験による学習の深まりがあった。また、自分たちの感じたことやわかったことを大学生に伝え、反応を得たことで児童らの自信にも繋がり、教職志望の学生にとっても学校現場の先進的な取り組みを体験できる機会として非常に好評であった。 生涯学習課の方々と大学生の交流

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元 | 6 | 時間中の | 5,6 | 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

・海の生き物を実際に見て、触れることで海の生物や自然への興味関心を持つ
・リモートでの発表や交流を通して、豊かな資源への感謝や自分たちの住む故郷への郷土愛を育む

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1. 台本をもとに児童から大学生へリモート	1. Wifi の動作環境の確認・会場のセッティング
2. タッチングプールへ移動・観察 ※漁師さんからの魚の説明 児童が実際に魚を触ってみる 	2. 中出さん（深日漁協）による魚の説明 睦谷さん（大阪府水産技術センター）によるサポート
3. 児童らによる大学生への魚の紹介 ※自分たちが実際に触って感じたことや漁師さんが教えてくれたおいしい食べ方などを大学生にリモートで伝える 	3. 教師は児童らが紹介しやすいように観察用の水槽に魚を入れたり、魚を持ってあげるなどの支援が必要。 〈評価の観点〉 児童が主体的に参加し、自分たちが感じたことをリモートの大学生や教員らに伝えることができたかどうか。 4. 大学生向けに、児童との交流終了後に岬町教育委員会生涯学習課、深日漁協の漁師さん、大学教員、ＩＣＴ支援員などに総括をしていただいいた。
4. 大学生や芥川准教授からの講評を聞く	

3.　今回の活動の自己評価

　モバイルルーターを使用して、深日漁港からリモートでの中継授業を試みた。台本を読む部分もあれば、タッチングプールで自分たちがその時に見た、触った感覚や感想をダイレクトに伝える場面もあり、児童の反応や予定時間が予期できない部分もあった。まさに「生中継」の要素が強く、「魚が暴れて水がかかる」、「魚が手から滑り落ちて大騒ぎになる」などのハプニングがある程度予想されていたので、教員や大学生たちもそれを楽しめる良い緊張感があった。

　特に海や海洋生物に対する興味関心の意識付けを１学期の長松海岸の体験学習などを通して積み重ねてきたことで、児童は自分たちが調べたことや感想を発表することに対して非常に前向きであったこと。タッチングプールで魚を触れないと言っていた児童が、本番では触れるようになったりするなどの成果が得られた。また、リモート相手の大学生にとっても非常に収穫が大きかったようである。石川県や北陸地方で教職を目指す学生にとって、海洋資源や文化をテーマとした総合的な学習の時間の授業に当事者として参加する機会はほぼない。児童とのリモート後に、岬町教育委員会生涯学習課、深日漁協の漁師さん、大学教員、ＩＣＴ支援員など様々な立場の方々と交流を持つ機会を設けたことで、学習のねらいや意図がより深まったという感想をもらっている。

4.　今後の課題

ICT 機器の操作等に関する課題は ICT 支援員などの活用で対応することができる。今回は岬町が GIGA 構想を積極的に導入しかつ迅速な対応をしていただけたことで、モバイルルーターの契約や機器の購入等の予算が児童の学習用具へと予算変更できたことがよかった。しかしながら、岬町のように農山漁村部地域かつ漁港という通信インフラの整備が十分でない地域では大手通信会社のモバイルルーターを契約するという選択肢となった。しかし、ルーターの買取やその後の契約料等を勘案すると研究終了後も持続的な学習をしていく点においてランニングコストの負担を学校がすることは最大の課題ではないだろうか。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特になし

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校１

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。